

小学4年1組 音楽科学習指導案

指導者 神門洋子

ソプラノとアルトの旋律の重なりよさを感じ取り、ペアやグループで美しく響き合った歌唱表現をめざし、学級全体で学び合う活動をしたことは、互いの声を聴き合って表現することを楽しみ、美しい響きの歌唱表現に高めていくことに有効であったか。

1 題材名 部分二部合唱を楽しもう～音の重なりを味わいながら～

2 授業の構想

(1) 次の文章は、「風のメロディー」の学習の際、各グループ発表の鑑賞後に書いた本学級児童Aのふりかえりである。

「風のメロディー」を最初歌ったときは、息が合わなくてめちゃくちゃになって、せっかくの曲がバラバラになっていました。そこでグループで曲の山の強弱や息つぎを工夫して歌いました。強弱は記号を譜面にかいていったのでよくわかりました。今日の発表では、やさしく歌えました。息つぎもあってすごくよかったです。他のグループは大きな声や息つぎがとてもうまくてびっくりしました。いい音ややさしい声がすばらしいと思いました。グループ発表の後の一人で歌うコーナーで僕は歌いました。とても勇気がいりました。最後まで歌えたのでとてもうれしかったし、楽しかったです。今回「風のメロディー」の強弱を工夫してみて実にいい歌だなあと改めてわかりました。(児童A)

児童Aは、一人で最後まで歌えた喜びを感じ取り、いい歌になるためには「息つぎ」や「強弱」「曲の山の工夫」などを友だちと工夫して歌い、曲想にふさわしい声や表現で歌うことができた。最初は「バラバラ」だった歌も最後には「息つぎも合っていた」ことから、めあてに向かって互いの音や声を聴き合うことに気づき、息つぎに気をつけて歌えたことが伺える。また、「めちゃくちゃ」な歌から「合う」ように歌が変わっていったところには、みんなの声を合わせて歌おうとする意欲や拍にのって歌う感受の姿も感じられる。また、グループで話し合いをしたり歌って試したりしていく中で、よりよい表現方法を見つけ、心をつなげて歌い、どんどん上手になっていった進歩の姿が伝わる。さらに「やさしい声で」歌うことができた姿からは、歌詞や曲想を感じ取り、それに合ったやさしい声で歌おうとする意欲が伝わる。

また、子どもたちは1学期に「風のメロディー」を通して、6拍子の拍の流れにのって曲想にあった単旋律の歌唱表現を経験してきた。また「子どもの世界」のようなパートナーソングに親しみ、拍の流れに合わせて自分のパートを歌う経験もしてきた。このように本学級の子どもたちは、曲の特徴を生かした表現の工夫をする活動をグループで行うことを通して、友だちに自分の思いを伝え合い、みんなで表現を工夫していく経験を重ねてきた。そして、工夫していく手がかりとして、音楽を形づくっている要素から、それらが生み出すよさやおもしろさを感じ取り、表現を工夫する力が育ってきた。発表の場では、友だちが見つけた表現のよさを生かして、みんなで歌って共有できるようにもなってきた。

このような学習を積み重ねることで、自分なりの思いをもち、豊かな表現をつくり出す子どもを育てていきたい。

(2) 本題材は、自分や友だちの歌声を聴き合いながらみんなで歌うことができる能力をさらに伸ばしていくために、部分二部合唱を取り上げ、2つの旋律が生み出すきれいな響きを感じ取ったことを、旋律の特徴を生かして表現できようようにすることをねらいとしている。

本題材では、歌唱では学習指導要領の「ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。」「エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」、鑑賞では「ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。」が関連している。

学習を展開するにあたっては、歌声の重なりに重点を置き、表現と鑑賞を関連づけて学習できるよう、鑑賞教材「赤とんぼ」（三木露風作詞/山田耕筰作曲）と歌唱教材「レッツダンス」（平野祐香里作詞/石桁冬樹作曲）の2つの教材を選択した。

「赤とんぼ」は、抒情豊かなメロディーが日本の秋の夕暮れの美しさを表現している童謡で、だれもが歌ったり聴いたりしてきている耳なじみの歌である。8小節の旋律を「独唱」と「二重唱」という2つの音楽形態を比べて鑑賞する。1番は「独唱」、2番は主旋律に重なったり響き合ったりする「二重唱」の演奏を聴き、音の重なりから生まれる響きの違いを聴き取らせることで、音の重なりによって音楽表現が豊かになることを感じ取らせることができると考える。また、演奏者が同じ子どもであることを知らせることで、「きれいだなあ。」「あんな合唱をしてみたい。」というあこがれを抱いたり、声の美しさを感じられたりすると考える。「どうしてあんなにきれいなんだろう。」と問いかけることで、聴くだけでなく自分たちも二部合唱をしたいという意欲を高めていく。

「レッツダンス」はリズムカルな曲調で、「ウキウキ」「ドキドキ」などの言葉の発音を生かして楽しく歌うことができる曲である。ハ長調の曲なので、階名唱で音程感を身につけることができやすい。曲の前半は斉唱から始まるが、後半では部分的に二部合唱となり、3度と6度の響きを感じ取ることができるようになっている。グループや全体で響き合うよさを感じ取りながら歌っていくことを繰り返していき、より豊かな表現を主体的に求めていくことができるようにしていきたい。

(3) 本題材では、ねらいを達成するために、2つの旋律がどう重なるか感受したり、斉唱から部分二部合唱になる時はどうきれいに響き合わせるかについて歌ったり話し合ったりして、音の重なりのよさや美しさを感じ取っていく展開を考えた。

そこで、題材を以下のように構成する。第1次は、「音を合わせたい。」「二部合唱がしたい。」という意欲が高まるような出会いを設定する。「赤とんぼ」の1番は「独唱」2番は「二重唱」の音源と出合わせ（聴かせ）、音の重なりの響きに注目させる。「音が重ると美しさがますな。」「斉唱から二重唱になるときれいだな。」等の2つの違う歌唱表現から生み出される音の重なりの美しさや豊かさを感じ取らせるようにしたい。そして、感じ取ったことをワークシートに記述したり、友だちの考えを聞いたりする活動を取り入れ、「きれいに響かせて歌いたい。」という思いをもたせるようにする。

第2次では「音を重ねて楽しく二部合唱をしよう」というめあてを提示し、ペアやグループや全体で「レッツダンス」を歌っていく。各パートの音程確認を全体で行った後、ペアで合唱部分を歌い、その演奏を聴く場を設け、響き合いの良さを感じ取る。ペアの演奏を聴くことで、子どもたちのめざす響きのお手本となったり、もっとう歌いたいという意欲につながったりすると考える。そして、一人ひとりが歌う力をつけていき、友だちと美しい合唱をつくり出していくことをめざすために、ペアやグループで練習していくことを確認する。主体的に活動ができるために、グループの構成は子どもたちにまかせていく。ペアやグループで練習していく際は、きれいに響き合うために気をつける歌い方を楽譜に書かせていき、歌い方を定着させていく。子どもたちは、自分たちで歌っていても、その響き合いが正しいかどうか判断つかないことがあると予想される。その場合は、ソプラノとアルトを入れ替えて歌い、響き合う感覚をつかませたり、トーンチャイムや鉄琴・リコーダーを使用してその響き合いから気づくことができたりするようにしていく。また、自分たちのイメージ通りの表現ができているかを確認するために、録音して聴かせたり、各グループの演奏を聴き比べさせたりして、どのような演奏になっているか客観的に聴いて確かめられるようにしていく。こうして聴き役をつくり、歌う側と聴く側を繰り返し体験したりすることで、響き合うことはハーモニーとしてとけ合うことだと感じ取ることができる子どもを育てていくことを大切にしたい。そのようにしてペアやグループで練習した合唱を中間発表する場を設定し、各グループの演奏のよさに気づかせ、さらによりよい合唱へと追求させていく。

本時では、響き合いの安定感が感じ取りやすいレッツダンスの「さあはじまるよ」の3度のハーモニーの歌い方について、美しく響き合うためにどんな工夫が有効か話し合っていく。「さあはじまるよ」の心地よい響き合いの表現を追求したことをきっかけに、楽曲全体はどう表現していくのか、さらに新たな音楽表現へと追求していく意欲へつなげていけるようにしていきたい。導入では、前時に聴いた各

グループの中間発表の感想のキーワードを提示する。「音量」や「強弱」などがあると予想する。そして、子どもが見つけた友だちの演奏のよさを全体で試して歌いながら、美しく響き合うために何を工夫するといったのかについて学び合っていく。キーワードの中でも着目する点を焦点化することで各グループの表現を比べることができたり、その後の練習に取り組む意欲をもたせたりできると考える。そこで、多様な工夫が考えられる「バランス」に視点をあて、バランスの違いで響き合いがどう変わるかペアやグループで試していく活動を設定する。その後、練習してみて気づいたことを全体場で伝え合い、友だちの考えや気づきを共有する。ペアやグループで工夫した表現を全体へ広げることで、一人ひとりが友だちの発言と比べたりよさを取り込んだりして思考力・判断力・表現力が広がっていく。このように、授業の構造を「話し合い→表現→話し合い」とし、思考力・判断力・表現力を育てていく。

本題材を通して、にきれいな響き合いを感じ取る経験は、今後の歌唱活動や合唱活動において、自分の声に関心を持ち、より豊かな響きを求めて表現しようとする態度への基盤になると考える。

3 展開計画（全6時間 本時5／6）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	「赤とんぼ」を聴き、旋律の重なり的美しさを感じ取る	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤とんぼの独唱」と「2重唱」の音の重なりを比べて聴き、旋律の重なりから感じ取った特徴(リズム・音程・響き)をつかむ。 ・美しい響き合いにはどんなよさがあるか自分なりに考えて発表する。
2	ソプラノとアルトの旋律の重なりや特徴を感じ取りながら、「レッツダンス」をペアやグループで楽しく歌おう	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「レッツダンス」の範唱を聴く。 ・リズムや音程に気をつけて各パートを階名唱や歌詞唱する。 ・2つのパートを交互に歌ったり、ペアで歌ったりして重なる部分の響き合う感覚をつかむようにする。
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや各グループでよりよい重なりを求めて練習する。
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループによる中間発表をしてみて、友だちの表現(旋律の重なり)のよさを伝え合う。
		⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの表現のよさ(響き・バランス)から、よりよい歌になるようにみんなで歌い方を工夫していくべき点を絞り、練習していく。 ◇友だちの表現のよさを見つけ、みんなや各グループで歌唱表現を工夫することができる。 ・練習してみてどう感じたか伝え合う。
		6	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声の重なり合う響きを感じながら2部合唱を楽しむ。

4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
2	⑤	◇ソプラノとアルトの旋律の重なりや特徴を感じ取りながら、「レッツダンス」をペアやグループで楽しく歌う。	ソプラノとアルトの旋律の重なり的美しさを感じ取りながら歌い方を工夫し、ペアやグループの音楽をどのように歌うかについて自分の考えをもっている。	ワークシート 演奏 発言	互いの声の美しさを感じ取り、響きやバランスについてどのように歌うか、自分や友だちの考えを生かして歌い方を工夫することができる。	互いの声の美しさを感じ取り、友だちの考えもとりこみながら、歌い方を工夫することができる。	互いの声を聴き合いながら、友だちの考えを生かして、ペアやグループの音楽練習に取り組むことができる。

5 本時の学習

(1) ねらい

ペアやグループで中間発表したことをもとに、美しく響き合うためには何に気をつけていくといいかについて話し合うことを通して、各パートの響き合いやバランスなどを工夫して合唱の練習をし、「レッツダンス」の部分2部の歌唱表現を高めることができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価(◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 自分たちで工夫した「レッツダンス」を歌い、前時までの各グループの表現をふりかえる。</p> <p>2. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">2つのパートを重ねて、美しく響き合うように歌おう</div> <p>3. 自分で工夫を考え、全体に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノとアルトの人数に着目できる子 ・音量に着目した子 ・ペアの場合はパートを入れ替えてみるという発想ができる子 ・自分の考えがもてない子 <p>4. 旋律のバランスや響き合いなどに着目して、ペアやグループで練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちのグループはソプラノの人数をふやそうよ。ソプラノが大きいとよく響くから。 ・アルトを大きく歌うと、響き合いがきまるよ。メロディをぐっと支えている感じだね。 ・みんなの歌声を聴いていると、気持ちいいよ。みんなの歌を聴きながら歌うと、うまくいくことがわかったよ。 <p>5. 学習をふりかえり、各グループの演奏ののびについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスが違くと響き合いも違った。ぼくたちのグループはソプラノよりアルトの方が多いうまくいった。 ・お互いに小さな声でよく聴き合って歌ったら、ハーモニーが安定して、きれいな響きがきまってるうれしかった。 	<p>・前時までの各グループの演奏で響き合うためのコツを確認し、学習課題を共通してもてるようにする。</p> <p>◎「自分たちの演奏がよりよくなるために試してみたい点はどこか」と問いかけ、響き合いやバランスについて考えるように促す。</p> <p>→人数やその理由について記述させる。 →大きさやその理由について記述させる。 →さらによりよい歌になる意識が高いことを認め、練習していくよう助言する。 →各グループの子に、どこで悩んでいるか思いを伝えさせ、友だちのアドバイスを聞いて、自分の考えを見つけさせていく。</p> <p>◎「よりよい響き合うために注目していく点はどこか」と問いかけ、響き合いやバランスについて練習していくことの必要を感じられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試して歌っていく場面では、ペアやグループ全員の考えを試していくことを確認する。 ・各グループの歌声を聴き、バランスや響き合いなどについて適宜助言をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>— 評価の観点（音楽表現の創意工夫） —</p> <p>ソプラノとアルトの旋律の重なるの美しさを感じ取りながら、歌い方を工夫し、ペアやグループの音楽をどのように歌うかについて自分の考えをもっている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 観察・つぶやき・歌唱表現】</p> <p>支援</p> <p>「レッツダンス」の旋律の重なるの美しさを確認したり、響き合うためにどう歌いたいと考えられるようにする。</p> </div> <p>・子どものふりかえりをもとに、「バランスや響き合い」を生かすことで、よりよい表現になったことに気づくようにしていく。</p>